

No. 363【2019年7月5日配信】

長島国民学校の戦後最初の運動会 (担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では今週から新しい館内展示「街並みからたどる戦後復興—よみがえった青森市街」を始めました。この展示は戦災により大きな被害を受けた青森市が復興していく姿を「街並みの復興」という視点から構成したものです。また、青森市へのアメリカ軍の進駐についても取り上げています。そこで、今回は進駐軍に関するエピソードをご紹介します。

昭和21年(1946)、長島国民学校(現長島小学校)が運動会の復活を決めました。青森市内の学校では戦後初めてのことでした。戦後間もない時期には全国的に体育施設が荒廃し、用具も不足しており、満足に運動ができる状況ではなかったといわれています。そんな中での運動会の復活は大きな決断だったことでしょう。

さて、運動会に向けて校庭で「集合」「解散」と号令をかけて練習をしていると、そこへ進駐軍の兵士がやってきました。そして、校長をジープに乗せ、進駐軍の本部が置かれていた青森市公会堂へと連れて行ってしまいました。



青森空襲で罹災した長島国民学校

CIE(民間情報教育局:GHQの教育担当部局)の担当者は校長から事情を聞くと、運動会の練習を「教練(軍事的な訓練)」と判断し、行わないよう注意しました。校長は運動会に必要な団体行動の練習であると説明しましたが認められず、自宅待機を命じられてしまいました。

当時、このように学校が進駐軍から注意を受ける事例は各地でみられたようで、昭和21年6月28日には文部省が「秩序、行進、徒手体操等実施に関する件」という通達を出しています。通達には「集まれ」などの号令をかけることはさしつかえないが、軍隊式の口調や態度はとらないようにとあります。

その後、長島国民学校の教師たちがCIEの誤解を解き、校長の出校と運動会の開催が認められました。しかし、学校側はこれでは収まりがつかないと、進駐軍に対し運動会の招待状を出すことにしました。

昭和21年7月8日、「戦後最初の体育会」と名付けられた長島国民学校の運動会が無事に開催されました。長島国民学校にとっては4年ぶりの運動会でした。天気にも恵まれ、子どもたちは元気にグラウンドを駆け回ったそうです。

会場には招待状を受け取った進駐軍の兵士も集まりました。その中には校長をジープに乗せた兵士やCIEの担当者の姿もあったといえます。彼らは子どもたちの競技を楽しそうに観戦し、写真を撮ったり「ナイス」と声をあげたりしていたそうです。

※今回の内容は『創立90周年記念誌 長島』(1962年 創立90周年記念事業協賛会)、『東奥日報』昭和21年7月9日付などを参考にしました。